



1 学期の期末考査が終わり、青少年劇場、甲子園予選での全校応援、学年対抗と行事が続き、すでに夏休みです。1 学期は多くの行事があり、あっという間に過ぎてしまいました。コロナ禍で制約のある暮らしは続いています、多くの行事を予定通り実施することができて本当に良かったです。2 学期も生徒の皆さんの良い思い出となる行事がすべて予定通り実施できるよう願うばかりです。

☆部活動報告式・甲子園予選壮行式（7月1日(木) 本校体育館）

（お詫び）デジタルカメラにSDカードを入れ忘れるという初歩的なミスにより、写真を掲載することができません。誠に申し訳ありませんm(_ _)m

（1）部活動報告式

1 学期期末考査の終了後、本校体育館で部活動報告式と甲子園予選壮行式が行われました。部活動報告式は、部活動を引退した3年生がこれまでの練習や大会を振り返り、思い出に残っていることや後輩への想いなどを発表します。部活動報告式で発表された3年生の言葉を少し紹介します。

<陸上競技部>

- 最後の大会ではハンマー投げで30mを超えることができ、目標を達成することができた。長いようで短い部活動だったが、とても充実していた。
- 全県総体では悔いが残る結果となってしまった。これまで部活動をやってきて良かったと思う。関わってくれた家族や先生方に感謝したい。
- 円盤投げで満足のいく結果となった。これまでの部活動で身に付けたことを活かして、進路に向けて集中して頑張っていきたい。
- 初めてのことでなければ部活動をやめたくなくなったこともあった。今では陸上競技をやって本当に良かったと思っている。陸上競技でやってきたことを強みにして、これからの人生に活かしていきたい。

<男子ハンドボール部>

- 全県総体の2試合目では自分たちの持っている力を出して勝つことができた。同学年の部員がおらず、辞めようと思ったこともあったが、先輩方などに支えられて、最後まで頑張ることができた。

<バドミントン部>

- 全県総体では緊張を力に換えることができた。バドミントンは高校から始めた人が多いけど、練習は競技の経験の長さを超えることができるので、練習を大切に頑張してほしい。
- 全県総体の結果は悔しかったが、最後まで諦めず力を出し切ることができた。これまでたくさんの人に支えられてバドミントンをすることができた。1・2年生には、自分たちがかなえられなかった目標を達成してほしい。
- 全県総体では、自分の持っている力を最後まで出し切ることができた。部活動を通して、仲間の大切さを感じることもできた。



部活動を引退した3年生全員が全校の前で気持ちを発表できるのは本校ならではのようです。3年生の発表後に校長先生から「頑張ったからといって結果が出るわけではないのがスポーツの難しさだが、勝つためにどれだけ努力したかが次につながる。」という言葉頂き、ひたむきに努力することの大切さを全校で確認することができました。

(2) 甲子園予選壮行式

部活動報告式の直後に甲子園予選壮行式を行いました。旗手を先頭に野球部員 8 名が入場しました。

校長先生のお話では、合同チームで大会に出場することについて、コミュニケーション面での大変さや合同チームとなる西仙北高校の校長先生と協議し、西仙北高校と一緒に全校応援をして盛り上げようとなったことをお話し下さいました。また、羽後高校野球部は創部 1 年目に県南大会で優勝するなど伝統のあるチームであることにふれ、当時の主将が生徒会誌に向けて書いた「苦しい場面でもへこたれない頑丈な精神が持ち味」、「勝つことだけがスポーツではないが、やるからには勝ちたい。」などの選手に勇気がわいてくるような言葉も話して下さいました。

続いて生徒会長から、「合同チームならではの経験ができたのではないか」、「自分たちの力を信じて頑張ってきてほしい」などの励ましの言葉を含むあいさつがありました。その後、生徒を代表して 2 年 B 組の男子生徒 2 名が「全力で戦ってきて下さい。」「野球を楽しんできて下さい。」などの激励の言葉を話してくれました。

野球部決意表明では主将が応援がある中で試合ができることへの感謝の気持ちや自分たちの力を出して一戦一戦勝っていきいたいことなどを力強く話しました。

☆秋田県青少年劇場 はなしの伝統芸能「落語」(7月6日(火)9:30~ 本校体育館)

7月6日は特別時間割となり、朝のSHR後に整容指導を行い、その後にイスを持って体育館に移動し、秋田県青少年劇場が行われました。今年度の青少年劇場は「落語」です。今回落語をして下さったのは、桂米多朗さんです。初めは緊張した面持ちの生徒たちでしたが、時間がたつにつれ米多朗さんのお笑いの世界にどんどん引き込まれていくのが分かりました。

初めは着物について一枚ずつ脱ぎながら説明してくれました。その後、扇子や手ぬぐい、座布団の使い方や落語についての説明もとてもおもしろくお話ししてくれました。披露してくれた落語の演目は【鰻頭怖い】と【牛ほめ】です。一人でたくさんの登場人物を演じ分けたり、登場人物の声だけでなく効果音まで演じたりと伝統芸能であることを実感できました。また、途中で南京玉すだれも披露してくれました。校長先生と教頭先生も登壇し、会場はさらに盛り上がりしました。

これまで生で落語を聞いたことがない生徒がほとんどのようでしたが、今回の青少年劇場で落語に興味を持った生徒がたくさんいるようでした。生徒の感想を抜粋して紹介します。

1年B組 男子生徒

人生で初めて生で落語を聞いて、テレビで見るよりもとても面白かったです。また、道具にはいろいろな意味があると知りました。いつかいろいろな人の落語を聞いてみたいです。

2年B組 女子生徒

桂米多朗さんが最後に話した「夢を持つことが悪いことではない」という言葉を聞いて、たとえやりたいことが変わっても前向きに努力を続けたいと思いました。

米多朗さんは最後に自身の経歴のお話から、夢を持つことの大切さ、どんなことでも前向きに頑張れば夢が叶っていくという話をしてくれました。とても気さくな米多朗さん、公演後すれ違う生徒に積極的に挨拶をしていました。落語の楽しさだけでなく、どう生きるべきかも教えてもらいました。

